

東京新聞

学会議会員の任命を拒否された岡田正則教授「イエスマンばかりでは役割を果たせない」

2020年10月2日 15時46分



早稲田大大学院の岡田正則教授

政策提言を行う国の特別機関「日本学会議」が、新会員として推薦した法律・歴史学者ら6人の任命を菅義偉首相が拒否した問題で、拒否された1人、早稲田大大学院の岡田正則教授が、東京新聞の取材に応じた。岡田氏は「イエスマンばかりでは学会議の役割を果たせなくなる」と語り、政府の対応に不信感を示した。（聞き手・望月衣塑子）

Q 任命拒否されたことをどう受け止めたか。学術会議として今後どう取り組んでほしいか

A 学術会議は学者の国会と呼ばれるように、いろいろな学者の皆さんの英知を集めて国の将来を作っていくためのものですから、それを**その時その時の政府の思惑でゆがめること**があると**将来の日本に対する障害をもたらす**ことになってしまう。学術会議も**イエスマン**ばかりになっては**全然役割を果たせなくなる**

Q 論文などで学術的に認められている6人を却下したことに對し、「学問の自由、学術会議の中立性を脅かす」と批判の声が出ているが

A **日頃の研究とか教育についても萎縮するような影響が起こりかねない**

Q 共謀罪（の趣旨を含む改正組織犯罪処罰法）や安保法制に、学者は声を上げてきた。政府への異論が許されなくなることへの懸念はあるか？

A 本来は審議会とかオープンな形で日本全国の皆さんの声が反映するような審議会委員の選び方が必要だが、今の**政府は審議会委員は自分たちのお墨付きを与えてくれるような感覚で人を選んでいるのかもしれない**。学術会議はそうではないわけで、それをゆがめることは将来に禍根を残す

Q 新執行部には何をどう求めていくか？

A 学術会議は政府に対してきちんと建設的な提言ができるのが存在意義。そういうことができるように、**人事でもってゆがんだような対応をやめる**。それが**将来の日本への責任**だと思う

おかだ・まさのり 早稲田大大学院法務研究科の教授、専門は行政法。「安全保障関連法案の廃止を求める早稲田大学有

志の会」の呼び掛け人の1人。沖縄県名護市辺野古の米軍新基地建設問題を巡っては18年、他の学者らとともに政府

の対応に抗議する声明を発表した